

幼児前期の遊びの変化とその契機に関する研究

横川 和章* 岡部 毅* 名須川 知子*

(平成4年9月30日受理)

幼児の遊んでいる姿を見ていると、遊びが次々と変化しているという印象を受ける。このような遊びの変化は、どのような契機によって生じているのだろうか。本研究は、幼児前期の幼児を対象に、遊びの変化とその契機について、できるだけ自然な状況で縦断的な観察を行い、検討しようとするものである。

幼児期の遊びに関する研究において、幼児がどのような形態の遊びをしているかを明らかにしようとする研究は多く行われてきた。幼児の遊びの形態は、いくつかの側面から分類が可能である。例えば、遊びの内容や遊び相手あるいは相手との関係性といった観点から遊びを分類し、遊びの発達的变化や認知的あるいは社会的要因との関連の検討がなされてきている(eg., Parten, 1932; Rubin, Watson, & Jambor, 1978)。

ところで、幼児の遊びは変化しやすいと言われており、遊びの持続時間も年少の幼児ほど短いことが報告されている(Stodolsky, 1974)。しかし、このような遊びの変化は、当然なものとして見過ごしてよい現象なのだろうか。むしろ、遊びの変化の特質を明らかにするためには、そこでの変化を意味あるものとしてとらえ、何らかの契機が存在していると考えていくことが必要ではないだろうか。上述したような多くの遊び研究は、遊びの形態や個々の内容の分析に主たる関心が向けられており、変化する遊びを一連のものとしてとらえるような立場に立ち、幼児の遊びの変化に着目し、遊びがどのような契機で変わるのかを明らかにしようとしたものではない。遊びの変化を引き起こす契機を明らかにするための方法論は確立されていないが、本研究では、幼児の遊びを観察することを通し遊びの変化の契機を探っていくことによって、この問題への接近を試みる。

しかし、遊びの変化を考えるときでも、遊びのどのような側面をとらえるかは重要な問題である。どのような場合に遊びが変化したというかは、遊びのどのような側面をとらえるかによって異ってくるからである。本研究では、特に幼児前期を対象としているが、この時期の遊びの多くは、物を介した遊びであることが報告されてきている(Eckerman, Whatley, & Kutz, 1975)。そこで、本研究では、遊びにおいて使用される遊具に着目し、遊具の変化によって遊びの変化をとらえることとした。

遊びの中でどのような遊具を用いるかは、当然のことながら幼児のおかれた状況に大きく依存している。したがって、結果を後に比較可能な形で得るためには、ある程度の遊具の設定は必要かもしれない。しかし、先述したように、本研究は幼児の遊びを観察し、そこから遊びの変化の契機となっているものを探ろうとする試みである。このためにはできるだけ日常の生活場面に近い形で、日常の様々な要素をできるだけ自然に含む設定が望ましいと思われる。幼児前期は、母親の目の届く範囲で遊ぶことがほとんどであると同時に、他の仲間との接触も始まる時期である。そこで、本研究では、そのような要素を含み、母親の日常に近いかわりを促すような状況を設定するよう試みた。

*兵庫教育大学第1部(幼児教育講座)

また、一つの遊びから別の遊びへと変化する過程を考えると、そこには、以前の遊びの終了と新しい遊びの開始とを含んでいる。実際には、この両者は、同時に生じる場合もあるが、そのような場合の多くは、新しい遊びの開始そのものが以前の遊びの終了の契機となっている。しかし、必ずしもこのような場合のみではなく、例えば、遊びの終了から次の遊びの開始まで間隔のあるような、以前の遊びの終了の契機と新しい遊びの開始の契機の両方が存在する場合もあろう。そこで、遊びの変化の契機を整理する際には、以前の遊びの終了の契機と新しい遊びの開始の契機を分離し考慮する必要があると考えられる。

以上のことから、本研究の主たる目的は、できるだけ自然な状況で、幼児の遊びの変化の契機となっているものを観察・記述し整理することである。その際、遊びに用いられる遊具の変化に着目し、遊びの変化を遊びの終了と開始の過程ととらえ、分析する。さらに、遊びの変化の契機において、幼児の年齢による差異や、複数回の観察を通しての縦断的な推移が見られるかどうかをあわせて検討する。

方 法

観察対象児と観察期間 観察対象児は男児4名であった。年齢的に近い2名の幼児とその母親を1グループとし、2グループに対し継続的に観察を行った。観察開始時点における年齢は、第1のグループ（以下、年長グループ）は、A児：2歳5カ月とB児：2歳4カ月、第2のグループ（以下、年少グループ）は、C児：1歳7カ月とD児：1歳2カ月であった。観察回数は、年長グループが4回（1991年6月、7月、9月、10月）、年少グループが5回（1991年6月、9月、1992年1月、2月、3月）であり、観察終了時点における対象児の年齢は、順に2歳8カ月、2歳8カ月、2歳4カ月、1歳11カ月であった。

なお、両グループとも第1回目の観察の約1カ月前に予備観察を行っている。したがって、幼児や母親にとって遊戯室の環境は、全く初めてのものではない。

観察手続き 2組の親子を遊戯室へ案内した後、実験者は退室し、自由に遊んでもらった。1回の観察時間は、実験者の退室から入室までの約35～40分間であり、遊戯室内の状況は、室内に設置した4台のビデオカメラによって録画した。できるだけ自然な状況で観察を行うために、母親に対しては、子どもとともに部屋に一緒にいてもらうこと、及び、普段子どもと接しているように接してもらうことのみを教示し、その他の要請は行わなかった。

遊戯室の状況と遊具 遊戯室の状況とビデオカメラ及び遊具の配置は、図1に示す通りである。観察開始前の遊具の配置は、各回の観察を通じすべて同じ配置にした。

分析手続き 4方向から録画した記録を1画面に編集した上で、以下の分析を行った。観察開始から35分間を分析対象とし、遊びとその変化の契機とを具体的に記述した。

まず、遊びの変化を記述した。遊びは、遊具を用いた遊びとして定義した。単に遊具を持っているという場合も含み、何らかの形で遊具を使用しているとみなされる場合はすべて遊びとした。ただし、明らかに、偶然に遊具に触れているという場合は除いた。また、走り回る等の活動や遊戯室内の遊具以外の物の探索などは遊びとして扱わなかった。

そして、使用した遊具が変化した場合に遊びの変化とみなした。全く異なる遊具を用いる場合のみでなく、複数の遊具を用い、遊具の追加や変更が生じた場合もすべて遊具に変化があったものとした。また、本研究では、遊具の種類そのものを問題としているので、遊具の使用の仕方において変化がある場合でも、遊具そのものが変化しないときは遊びの

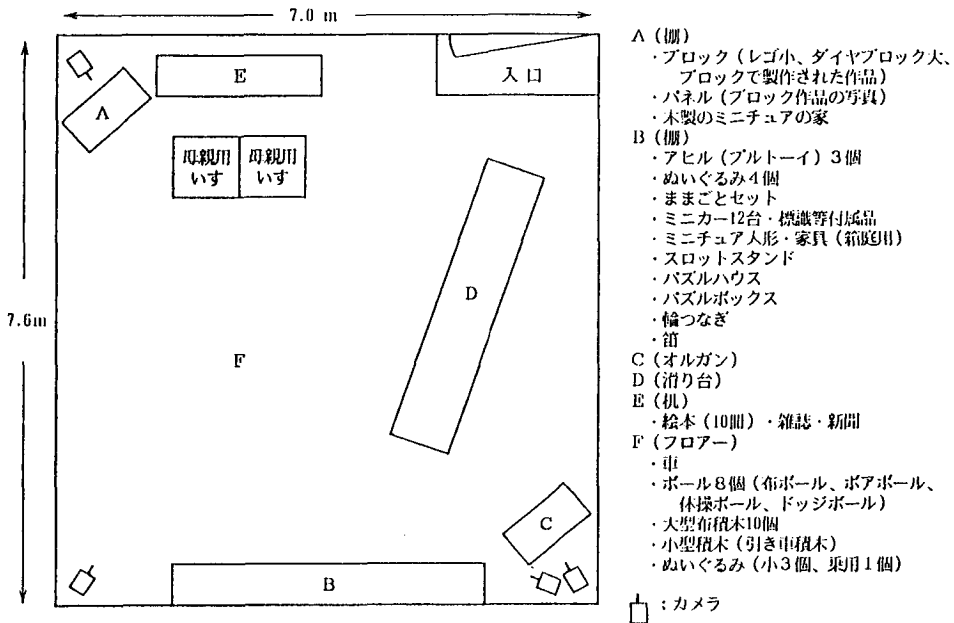


図1 遊劇室の状況と遊具

変化としなかった。

次に、遊びの変化の契機をできるだけ詳細に記述した。そして、この記述をもとに、遊びの変化の契機を分類した。

以上の分析は、すべて2名の観察者によって行い、記述や判断の異なる場合は、協議の上決定した。

結 果

遊びの変化の契機に関する分類

まず、遊びの変化の契機となっている要因を分類した結果を述べる。先述したように、遊びの変化は、以前の遊びの終了と新しい遊びの開始の過程を含んでいる。この両過程は、同じ契機によっている場合もあれば、異なる場合もあり、遊びの変化の契機を整理する場合、この2つの過程を分離して考える必要がある。したがって、以下は以前の遊びの終了の契機と新しい遊びの開始の契機とをあわせて遊びの変化の契機と呼ぶ。

遊びの変化の契機は、大別すると、他児に関連した契機、母親に関連した契機、遊具に関連した契機に分類が可能であった。これらは、いずれも遊びの開始及び終了の契機となりうる。また、遊びの終了は、次の遊びの開始による場合もあるので、まず、新しい遊びを開始する契機を分類した。以下に具体的な事例とともにこれらの分類を述べる。

遊びの開始の契機 他児に関連した遊びの開始の契機は、他児からの直接的影響による場合と間接的影響による場合とに大別できる。他児からの直接的影響とは、ここでは他児から対象児に向けられた直接的働きかけによる遊びの開始ととらえられる。他児からの直接的働きかけとしては、言語的指示や遊具の提供などが観察された。例えば、以下のような事例がこれにあたる。

〔事例1：(B児) ブロック車を使って遊んでいたBの所にAが近づき、ままごと道具を「はい、どうぞ」と渡す。Bは、そのままごと道具をうけとり、大型布積木の上でままごとを始める。〕

このような直接的な働きかけのない場合でも、何らかの他児の行動に注目することによる遊びの開始が見られる。この中でも、次の事例のように、他児が接近したり、離れたたりすることが引金となって他児への注目を誘発し遊びが開始される場合があり、これを特に他児の間接的働きかけによる変化とした。

〔事例2：(C児) Cが絵本を読んでいる所に、Dがスロットスタンドを持って近づいてくる。Cはそれを見て「遊ば」と言って、スロットスタンドを使ってBと一緒に遊び始める。〕

それ以外は、すべて他児の行動に注目することによって遊びが開始される場合である。この場合には、次の事例のように、他児の遊びから発せられる音声的な刺激が要因となっていることもある。

〔事例3：(C児) Cはオルガンをひいているが、ガシャガシャというブロックの音でブロックで遊んでいるDの方を見る。しばらくDがブロックをしているのをみてオルガンをひくが、椅子をおり、ブロックの所へ走り、Dと一緒にブロックで遊ぶ。〕

以上の事例は、すべて他児からの直接的・間接的影響によって、他児と同じ遊びが開始される場合であった。まったく同様の契機であるが、他児と異なる遊びが開始される場合も見られた。そこで、この場合を特に他児と異なる遊びの開始として分類した。これには、以下のような事例がある。特に、事例5や事例6のように他児の近くにある遊具を用いる場合がしばしば観察されるが、それ以外にも他児の遊んでいる行為を別の遊具で再現するという場合もあった。

〔事例4：(B児) ミニカーで遊んでいるBに対して、Aがままごと道具のスプーンを渡そうとするが、Bは受けとらずに、後ずさりして触れた滑り台で遊び始める。〕

〔事例5：(C児) 棚の前でミニカーを使って遊んでいるCの所に、Dがボールを持って近づいてくる。CはDの方を見、そばの棚に置いてあるままごと道具を見つけ、近づいて取り出し遊び始める。〕

〔事例6：(B児) Bは、アヒルを引くのをやめて、AとAの母親がパズルハウスをしている所に来てその様子を見るが、その近くにあった大型の布積木を拾って投げ始める。〕

母親に関連した契機は、母親の意図的影響と無意図的影響とに大別できる。母親の意図的影響による場合は、母親の意図的で直接的な働きかけによる遊びの開始であり、次に示す事例のように、母親が言語的に遊具を指示したり、行動的に遊具を提供する場合である。

〔事例7：(A児) 母Aが、ままごとをしているAの前に大型布積木を持ってきて並べ「大きなテーブルができたぞ」という。Aは、その大型布積木をテーブルに見立て、その上でままごと遊びを始める。〕

母親の無意図的影響と考えられるものは、特に遊びの開始を意図しない母親の無意図的な働きかけによる場合、母親は直接的に働きかけはしていないが幼児が母親の行動に注目する場合、母親が他児に向けた行動に注目する場合などがある。これらの具体的事例は以下のようなものがある。

〔事例8：(C児) 母CがCに「何持ってんの」とたずねると、Cは「ボール」と答えるが、すぐにその場にボールを置き、近くのミニカーを「バス」と言って母に差しだし、ミニカーを並べ始める。〕

〔事例9：（B児）Bは母Bがミニカーを拾い、手に持っていることに気づき、「何でさわってんの」とたずねて、そのミニカーを手にとり、フローアにミニカーを並べ始める。〕

〔事例10：（B児）母Aが積木の方を指さし、Aに対し「あれで道路作ってみたら」という。Bは、母Aが指さした方向をみて、ボールをみつけ遊び始める。〕

最後に、遊具に関連する契機がある。これは、他児や母親の契機とは関係なく遊びが開始された場合といえる。この契機は、遊具の発見による遊びの開始、一旦他の遊具で遊ぶが再び以前の遊びに移るという再開・継続による遊びの開始、遊びの展開・発展による遊びの開始に大きく分類できる。これには、以下のような事例がある。

〔事例11：（D児）Dは車を押していたが、その途中でボールをみつけ、ボール遊びに移る。〕

〔事例12：（D児）しばらくボールで遊んでいるが、以前に遊んでいた車を再び押して遊び始める。〕

〔事例13：（D児）ミニカーを床で走らせているが、滑り台のそばで走らせているうちに、次は、ミニカーを滑り台の上からすべらせる遊びに発展する。〕

遊びの終了の契機 遊びの終了の契機についても、遊びの開始の契機とほぼ同様の分類が可能である。新しい遊びの開始が直接遊びの終了の契機と考えられる場合は、遊びの開始の契機と同様の分類を行った。

他児に関連した契機や母親に関連した契機には、それらが遊びの開始を伴わず遊びの終了にいたる場合があり、それぞれ対応した終了の契機と考えた。例えば、他児に関連した契機の事例として事例14～16、また、母親に関連した契機の事例として事例17～20がある。

〔事例14：（D児）Dはミニカーを床の上で走らしていたが、Cが「ぼくの」といってミニカーをとるので、その遊びは終了する。〕

〔事例15：（B児）Bは滑り台をさわりながら母Bの話を聞いていたが、Aが滑り台に走ってきたので、Bは滑り台から離れる。〕

〔事例16：（D児）Dは、Cがぬいぐるみの方を見ているのを見て、遊んでいたボールをやめて歩き始める。〕

〔事例17：（B児）Bが足元にあるぬいぐるみを足でふんでいるのを見た母Bは、「足でやったらいいいい」と声をかける。それを聞いたBはやめて母の所に来る。〕

〔事例18：（A児）母とボール遊びをしていたAは、母に向かってボールを投げたが、それを受け取った母が話をしているボールを返してくれないので、ボール遊びは終了する。〕

〔事例19：（B児）Bは車に乗って遊んでいたが、母Bが遊ばなくなったブロックを片付け始めるのを見て、「しまっちゃだめ」と言って、車を降り、車での遊びは終了する。〕

〔事例20：（D児）Dはミニカーで遊んでいたが、滑り台をしているCに対して、母Dが「C君がすべります」と声をかけるのを聞いて、ミニカーで遊ぶのをやめ走り出す。〕

また、遊具に関連した契機においても新しい遊びの開始が終了を意味する場合はそれに準じて分類できる。しかし、新しい遊びの開始がなく、遊びが終了することもある。このような場合、典型的には以下の事例に示すようにうろうろしたり、次の遊びを探するような行動が見られる。この場合を特に次の遊びへの終了とした。

〔事例21：（D児）Dはスロットスタンドをして遊んでいるが、やめて立ち上がり、うろうろと歩いて次の遊びをさがす。〕

その他の遊具に関連した契機として、遊具が物理的に使用不可能になった場合や直接遊びには用いられない遊具への注目による終了の場合があった。

また、これ以外の場合として、遊具以外の物への注目などによる終了をその他の契機とした。

遊びの変化の契機別の頻度

表1に、各観察対象児別に、全観察におけるこれらの契機の総頻度を示した。なお、遊びの終了の契機の場合に、新しい遊びの開始そのものが契機となっている場合は、遊びの開始の契機のカテゴリーと同じ欄に記してある。すべての観察対象児に共通して、遊びの開始の契機、終了の契機のいずれにおいても、遊具に関する契機が最も多く、次いで他児に関連する契機が多く、母親に関連した契機は最も少なかった。

他児に関連した契機においては、他児の直接的働きかけによる変化は少なく、他児の行動に注目することによる遊びの変化が最も多かった。母親に関連した契機は比較的少ないが、年長グループにおいて若干多く生じる傾向にあった。遊具に関連した契機は、すべての対象児に共通して多く見られたが、具体的項目においては、若干異なる傾向も見られる。遊具に関連した開始の契機において、遊具の発見による開始は、年少のグループの幼児の方が年長グループの幼児よりその比率が高く、遊びの展開・発展による開始はその逆の傾向を示している。

また、遊びの終了の契機として、次の遊びそのものの開始が契機となっている場合は多く見られ、終了の契機全体の約7割を占めていた。

表1 観察対象児別の遊びの変化の契機

	遊びの開始の契機				遊びの終了の契機			
	年長グループ		年少グループ		年長グループ		年少グループ	
	A児	B児	C児	D児	A児	B児	C児	D児
<他児に関連した契機>								
他児の直接的働きかけによる遊びの変化								
1-1 遊びの開始(同じ遊び)	2(1.9)	6(3.8)	4(4.4)	1(0.6)	2(1.9)	5(3.2)	3(3.3)	1(0.6)
1-2 遊びの開始(異なる遊び)	0(0.0)	1(0.6)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.6)	0(0.0)	0(0.0)
1-3 遊びの終了	-	-	-	-	3(2.9)	3(1.9)	0(0.0)	3(1.3)
他児の間接的働きかけによる遊びの変化								
1-4 遊びの開始(同じ遊び)	2(1.9)	2(1.3)	8(8.9)	0(0.0)	1(1.0)	2(1.3)	7(7.8)	0(0.0)
1-5 遊びの開始(異なる遊び)	0(0.0)	1(0.6)	2(2.2)	1(0.6)	0(0.0)	1(0.6)	1(1.1)	1(0.6)
1-6 遊びの終了	-	-	-	-	3(2.9)	5(3.2)	3(3.3)	6(2.6)
他児の行動に注目することによる遊びの変化								
1-7 遊びの開始(同じ遊び)	23(22.3)	21(13.5)	14(15.6)	38(16.2)	18(17.5)	20(12.8)	13(14.4)	32(13.6)
1-8 遊びの開始(異なる遊び)	4(3.9)	7(4.5)	4(4.4)	4(1.7)	3(2.9)	7(4.5)	4(4.4)	4(1.7)
1-9 遊びの終了	-	-	-	-	1(1.0)	4(2.6)	7(7.8)	3(1.3)
<母親に関連した契機>								
母親からの意図的働きかけによる遊びの変化								
2-1 遊びの開始(意図した遊び)	10(9.7)	15(9.6)	2(2.2)	5(2.1)	7(6.8)	12(7.7)	2(2.2)	3(1.3)
2-2 遊びの開始(意図しない遊び)	1(1.0)	3(3.2)	1(1.1)	1(0.4)	1(1.0)	4(2.6)	0(0.0)	0(0.0)
2-3 遊びの終了	-	-	-	-	0(0.0)	3(1.9)	0(0.0)	1(0.4)
母親からの無意図的働きかけによる遊びの変化								
2-4 遊びの開始	0(0.0)	0(0.0)	1(1.1)	1(0.4)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.1)	0(0.0)
2-5 遊びの終了	-	-	-	-	5(4.9)	0(0.0)	0(0.0)	3(1.3)
母親の行動に注目することによる遊びの変化								
2-6 遊びの開始	1(1.0)	2(1.3)	0(0.0)	1(0.4)	1(1.0)	1(0.6)	0(0.0)	1(0.4)
2-7 遊びの終了	-	-	-	-	0(0.0)	1(0.6)	1(1.1)	0(0.0)
母親が他児に向けた行動による遊びの変化								
2-8 遊びの開始	3(2.9)	2(1.3)	1(1.1)	2(0.9)	3(2.9)	1(0.6)	1(1.1)	2(0.9)
2-9 遊びの終了	-	-	-	-	0(0.0)	1(0.6)	1(1.1)	1(0.4)
<遊具に関連した契機>								
遊具に関連した遊びの開始								
3-1 遊具の発見	34(33.0)	42(26.9)	36(40.0)	130(55.3)	18(17.5)	25(16.0)	27(30.0)	103(43.8)
3-2 以前の遊びの再開・継続	8(7.8)	28(17.9)	11(12.2)	40(17.0)	6(5.8)	22(14.1)	8(8.9)	28(11.9)
3-3 遊びの展開・発展	15(14.6)	24(15.4)	6(6.7)	11(4.7)	13(12.6)	22(14.1)	6(6.7)	10(4.3)
遊具に関連した遊びの終了								
3-4 次の遊びへの終了	-	-	-	-	14(13.6)	12(7.7)	4(4.4)	27(11.5)
3-5 その他	-	-	-	-	1(1.0)	1(0.6)	1(1.1)	2(0.9)
<その他の契機>								
4-1 その他の終了	-	-	-	-	3(3.0)	3(1.9)	0(0.0)	4(1.7)
変化の総数	103	156	90	235	103	156	90	235

遊びの変化の契機における縦断的比較

遊びの変化において、遊びの終了の契機あるいは開始の契機のいずれかに他児に関連する契機を含む場合をとりあげ、各観察回ごとにその頻度と割合を算出した。同様の方法で、母親に関連する契機、遊具に関連する契機についても算出し、対象児別、観察時期別に示したものが表2である。遊びの変化の契機そのものには、明確な縦断的变化は見られない。むしろ、対象児ごとのパターンがあるように思われる。例えば、C児とD児を比較すると、C児は他児に関連する契機が相対的に高い割合を示しているのに対し、D児は遊具に関連する契機が一貫して高い割合を示している。

考 察

本研究の目的は、遊びの変化の契機となるものを記述し整理することであった。遊びの変化の契機は、その終了の契機及び開始の契機からなるが、いずれも他児に関連した契機、母親に関連した契機、遊具に関連した契機にほぼ大別できた。この3つの分類を比較すると、遊具に関連した契機が最も多く、次に、他児に関連した契機が多く、母親に関連した契機は最も少なかった。

表2 遊びの変化の契機の縦断的比較

対象児	契機	観察時期				
		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
A児	他児	7(30.4)	14(41.2)	11(47.8)	4(17.4)	
	母親	3(13.0)	5(14.7)	3(13.0)	9(39.1)	
	遊具	15(65.2)	23(67.6)	11(47.8)	12(52.2)	
B児	他児	9(19.1)	14(50.0)	20(47.6)	7(17.9)	
	母親	11(23.4)	0(0.0)	10(23.8)	7(17.9)	
	遊具	29(61.7)	20(71.4)	18(42.9)	29(74.4)	
C児	他児	9(56.2)	6(35.3)	14(38.9)	6(60.0)	4(36.4)
	母親	0(0.0)	3(17.6)	3(8.3)	0(0.0)	0(0.0)
	遊具	11(68.7)	10(58.8)	19(52.8)	5(50.0)	8(72.7)
D児	他児	11(25.9)	16(25.8)	11(24.4)	9(18.4)	7(17.1)
	母親	7(18.4)	5(8.1)	1(2.2)	2(4.1)	0(0.0)
	遊具	26(68.4)	47(75.8)	34(75.5)	40(81.6)	38(92.7)

() : %

遊具に関連した契機が多いことは、一つには遊びの変化を遊具の変化によって規定したことによる影響が大きいと考えられるが、それに加えてこの時期の幼児にとって遊具とのかかわりが重要な意味を持っていることを反映しているのではないだろうか。ただし、少数事例の比較ではあるものの、その内訳において幼児の年齢によって、異なった傾向が現れている。遊びの開始において、年長グループの幼児で遊びの展開・発展が大きな契機となっているのに対し、年少グループの幼児の場合、遊具の発見が大きな契機となっており、この結果は遊具とのかかわり方の違いとも考えられる。遊びの展開・発展による遊びの開始においても、遊具の発見がないわけではない。しかし、単に遊具を発見したからその遊具を用いるというよりは、遊びの展開の中へ遊具を組み入れていく側面が年長の幼児において強かったのだと思われる。また、遊びの再開・継続の契機の存在にも注目しておきたい。確かに、幼児の遊びは変化するものである。しかし、遊びの再開・継続といった点でとらえられる遊びの変化が存在しているということは、表面的には変化していても、その根底には持続した遊びが続いていることを示唆するものかもしれない。

他児に関連した契機では、他児からの直接的働きかけは少なく、他児への注目といった間接的な影響が多いことを示していた。この結果は、この時期の幼児の他者とのかかわりのあり方を反映していると考えられる。遊びの形態を他者との相互作用の側面から分類した従来の研究は、幼児前期の社会的な遊びは平行遊びの形態をとることが多いことを示しているが(Rubin, Maioni, & Hornung, 1976; Smith, 1978)、このことは、本研究で得られた他児の間接的な影響による遊びの変化が多いという結果と共通する基盤を有していると思われる。また、興味深いことに、他児による遊びの開始においても必ずしも同じ遊具を用いるとは限らない。例えば、他児に注目し、他児の近くの遊具を用いる場合があるが、これは純粋に他児に関心を示しているというよりは、遊具の発見のきっかけに他児がなっていたのであり、その関心の多くは遊具に向けられていると言える。しかし、また、他児と同じ行為を異なる遊具で再現するといった場合もあり、この場合はむしろ遊具と言うよりは他児の行為の方に強い関心があると思われる。

母親に関連した契機は少なかった。年長グループの方が年少グループよりもこの契機が多い傾向が伺えたが、これは、母親の接し方そのものが異なっていたという可能性が考えられる。しかし、また、母親の接し方は同じであっても、遊びの変化として現れる影響力の違いであるとも考えられる。この点に関しては、本研究は、遊びの変化の時点のみを分析しているので、結論は下せない。いずれにしろ、母親は、子どもに対し、ある程度意図的なかかわりをしていると考えられるが、結果をみると、母親が意図しないような子どもの遊びの変化も現れており、このことは、ある意味で母親の無意図的影響性を示しているとも言える。

また、新しい遊びの開始によって、以前の遊びが終了する場合は、遊びの変化のかなりの割合を占めていた。この結果も、この時期の遊びの変化のひとつの特徴として述べることができる。しかし、次の遊びの開始がなく遊びが終了する場合も数多くあり、遊びの変化を遊びの終了と開始という二つの過程でとらえることは妥当であったと考えられる。また、ひとつの遊びが終了することによって、自ら進んで次の遊びを求めて行くという面もあろう。

以上のように、4名の幼児の観察をもとに、遊びの変化の契機を考察してきたが、全体的にかなり類似した傾向を示しているものの、個人による違いも現れている。結果では、特に触れなかったが、例えば、年少グループのC児とD児は、その遊びの変化の数におい

て、非常に対照的である。また、遊びの変化の少ないC児は、相対的に他児にかかわる変化の契機の割合が高いのに対し、遊びの変化の多いD児は、遊具にかかわる契機の割合が高いようである。これは、他児に対する関心の高い幼児と遊具への関心の高い幼児といった幼児の傾向による差異を反映するものかもしれないが、対象児を増やし観察を行う必要があるだろう。

本研究では、遊びの変化を遊びに用いる遊具の変化でとらえ、その契機の分析を試みた。幼児前期の遊びの多くが物を介した遊びであり、実際、本研究においてもそれ以外の遊びと考えられる活動は少なかったことから、このとらえ方は妥当であったように思われる。しかし、遊びの変化の契機において、遊びの展開・発展といった契機が見いだされたように、遊具をいかに用いるかが遊びの変化に大きくかかわってくる場合も見受けられた。また、同じ遊具を用いても、異なる遊具の使用をしている場合も多く観察された。今後は、このような遊具の使用の変化も併せて遊びの変化とその契機を検討していくことも可能と思われる。

引用文献

- Eckerman, C. O., Whatley, J. L., & Kutz, S. L. 1975 Growth of social play with peers during the second year of life. *Developmental Psychology*, 11, 42-49.
- Parten, M. B. 1932 Social participation among pre-school children. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 27, 243-269.
- Rubin, K. H., Maioni, T. L., & Hornung, M. 1976 Free play behaviors in middle-and lower-class preschoolers: Parten and Piaget revisited. *Child Development*, 47, 414-419.
- Rubin, K. H., Watson, K. S., & Jambor, T. W. 1978 Free-play behaviors in preschool and kindergarten children. *Child Development*, 49, 534-536.
- Smith, P. K. 1978 A longitudinal study of social participation in preschool children: Solitary and parallel play reexamined. *Developmental Psychology*, 14, 517-523.
- Stodolsky, S.S. 1974 How children find something to do in preschools. *Genetic Psychology Monographs*, 90, 245-303.

A Study on Change of Play and Its Cues in Early Infancy

Kazuaki YOKOGAWA, Takeshi OKABE, and Tomoko NASUKAWA

The purpose of this study is to analyze and categorize change of play and its cues. We observed two pairs of mother and child in our play room who played in natural conditions. We recorded their interactions for about 40 minutes of free play 4 or 5 times on a video tape. Total changes of play were 584 and their cues were analyzed and classified. The results obtained from this study were as followed : 1) We have three categories of the cues of play. 2) The changes of play caused by toys happened most often, that of play caused by other child's behaviors did next, and that caused by mothers' did least often. 3) Interactions between children contained direct and indirect actions and attracted notice of the other child. 4) Whether mothers acted intentionally or not, their behaviors affected children's changes of play. 5) Both finding a toy in the room and resuming his previous play can cause the cues of changes of play.